

## 発刊にあたって

悲惨な戦争を経験してから73年が過ぎました。戦後、長きにわたって一度の戦争も経験せず、平和な時代が続いてきたことは、日本が世界に誇れることです。

「平成」という時代が終わり、新たな時代を迎えようとしています。今後も戦争の悲惨さと平和の尊さを後世の人々に語り継いでいくことは、私たちの大切な役目です。

芦屋市では、平成30年8月19日（日）から26日（日）まで、初めて広島市と共催で「ヒロシマ原爆展」を開催しました。期間を通して多くの方にご来場いただき、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う皆さまの思いを一層強くする機会となりました。

この度、「ヒロシマ原爆展」の開催を記念し、展示資料をはじめ、被爆体験証言会や被爆体験記朗読会の内容などをとりまとめ「平和記録集」を作成しました。

また、戦争を体験した方が年々減少していく中、戦争体験を次世代に継承していくため、市内の小学校で実施した戦争体験者を招いての平和学習の様子も掲載しております。

多くの方々にこの記録集をお読みいただき、平和への想いが語り継がれていくことを切に願っております。

最後に、発刊にあたり御協力いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

平成31（2019）年3月

芦屋市・芦屋市教育委員会

## 非核平和都市宣言

緑濃い六甲の山、青く澄みきった空、清らかな川の流れ、夕日に映える瀬戸の海、この美しい自然は、わたしたちの宝であり、未来の子供たちに残すことは、わたしたちの願いです。けれども、この願いに背をむけるかのように核兵器は増え続け、世界を破滅の淵においやろうとしています。核兵器の廃絶は、今や、全人類の死活にかかわる最も緊急の課題であり、最大の願いにほかなりません。戦後いくたびか、平和を願う人類の理性と決意は、核兵器の使用と核戦争を防いできました。わたしたちは、この理性と決意を信頼し、かけがえのない生命の星、青く輝く地球を笑顔にあふれる子供たちに残すため、いまふたたび、心をひとつにして核兵器を廃絶するよう、全世界によびかけます。そして、国是である非核三原則の厳守を強く希望するとともに、わたしたちの街・芦屋をいかなる形であろうとも核兵器に関連して使わせないことを自ら決意し、ここに非核平和都市であることを宣言します。

芦屋市議会(昭和60年10月15日決議)



戦後70年及び非核平和都市宣言30周年を記念してこの銘板を設置する。

平成27年(2015年)10月15日 芦屋市

## 目 次

ヒロシマ原爆展	1
ヒロシマ原爆展展示資料	2
ヒロシマ原爆展オープニングセレモニー・記念講演会	1 1
被爆体験証言会	1 2
被爆体験記朗読会	2 3
広島平和記念資料館寄贈図書	2 4
平和学習	2 5
「小学生の描いた平和ポスター展」受賞作品	3 1
被爆樹木アオギリ二世	3 7
「たゆまぬ平和への歩み」展	3 8
平和に関する展示絵本一覧	4 1

